

ほそぐちした
細口下1号窯跡

調査の経過 細口下1号窯跡は、名古屋市天白区天白町に所在する。地形的には、東側にむけて傾斜する緩斜面となる。

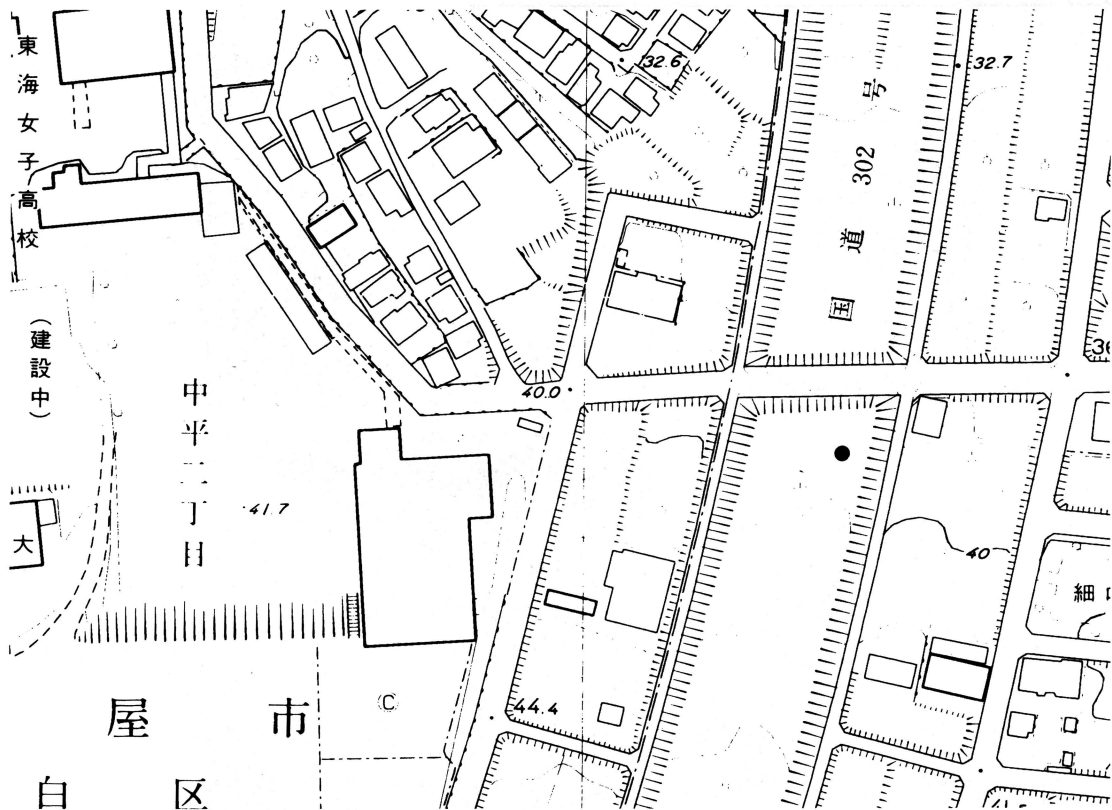
今回の調査は、国道302号線建設に伴う事前事業として実施したもので、調査面積は200㎡である。

調査の概要 調査の結果、焼成室がほぼ残存する窯体を検出した。構造は分炎柱を有する窖窯で、残存長は5.0m。東向きに開口する。分炎柱は残存高10.0m、焼成室側半分の基底部を残すにすぎない。基底部の規模は、短辺のみ計測でき、0.5mをはかる。床面は、断ち割り調査の結果、上下二つを検出している。下層を一次窯、上層を二次窯とする。中央部の床下には一次窯の床面直上に焼成不良の碗を伏せ置いたり、焼台を敷き詰めた二次窯の床下施設が確認できた。分布域は、分炎柱基底部上端から計測して2.0m地点から3.0m地点までに集中する。

今回の調査では、窯体の南側6.0m地点でも、焼土面が確認されている。周囲の状況からこれらが窯体床面の残欠である可能性が高い。検出できた面積は約0.3㎡で、赤褐色に変色している。比熱の幅は3cm程度となる。

出土遺物は、窯体の焼成品と考えられる灰釉系陶器類がある。時期は、12世紀後半から13世紀に属する。器種には碗、小皿、壺、瓦がある。

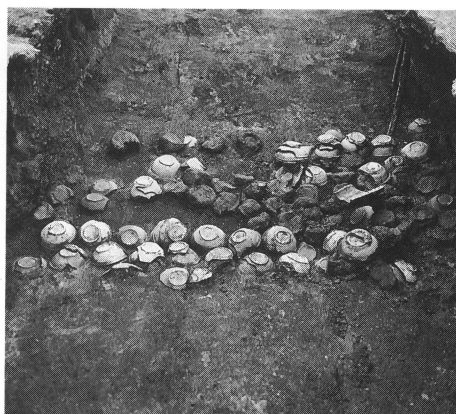
(池本正明)



第1図 調査地点位置図 (1:2500)

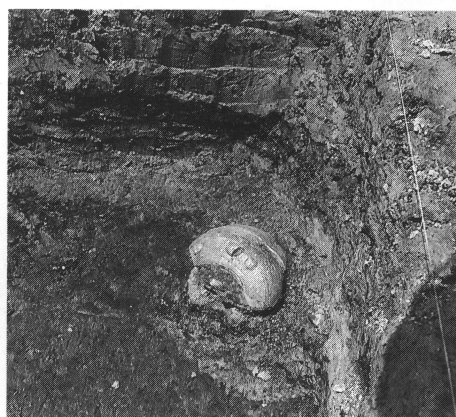


航空写真



左 S Y 01

右 S Y 01
床下施設



左 S Y 02

右 遺物出土状況

第2図 調査風景